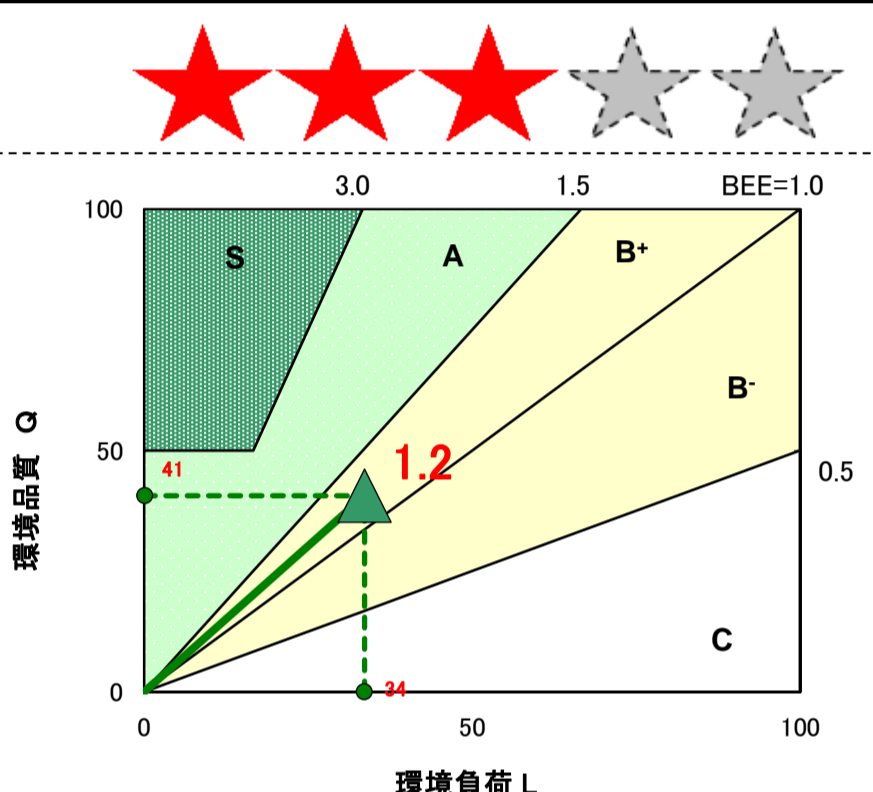


CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要				1-2 外観
建物名称	(仮称)新益城工場建設プロジェクト	階数	地上1階	 <p>【外観図】シートへ貼り付けしてください。</p>
建設地	熊本県上益城郡益城町大字小谷字	構造	S造	
用途地域等	市街化調整区域	平均居住人員	300 人	
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	3,180 時間/年	
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工時期	2024年12月 予定	評価の実施日	2023年8月10日	
敷地面積	40,000 m ²	作成者	栗原寿樹矢	
建築面積	4,348 m ²	確認日	2023年8月22日	
延床面積	4,011 m ²	確認者	定森淳一	

2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)



環境品質 Q

環境負荷 L

BEE = 1.2

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)

☆☆☆☆☆

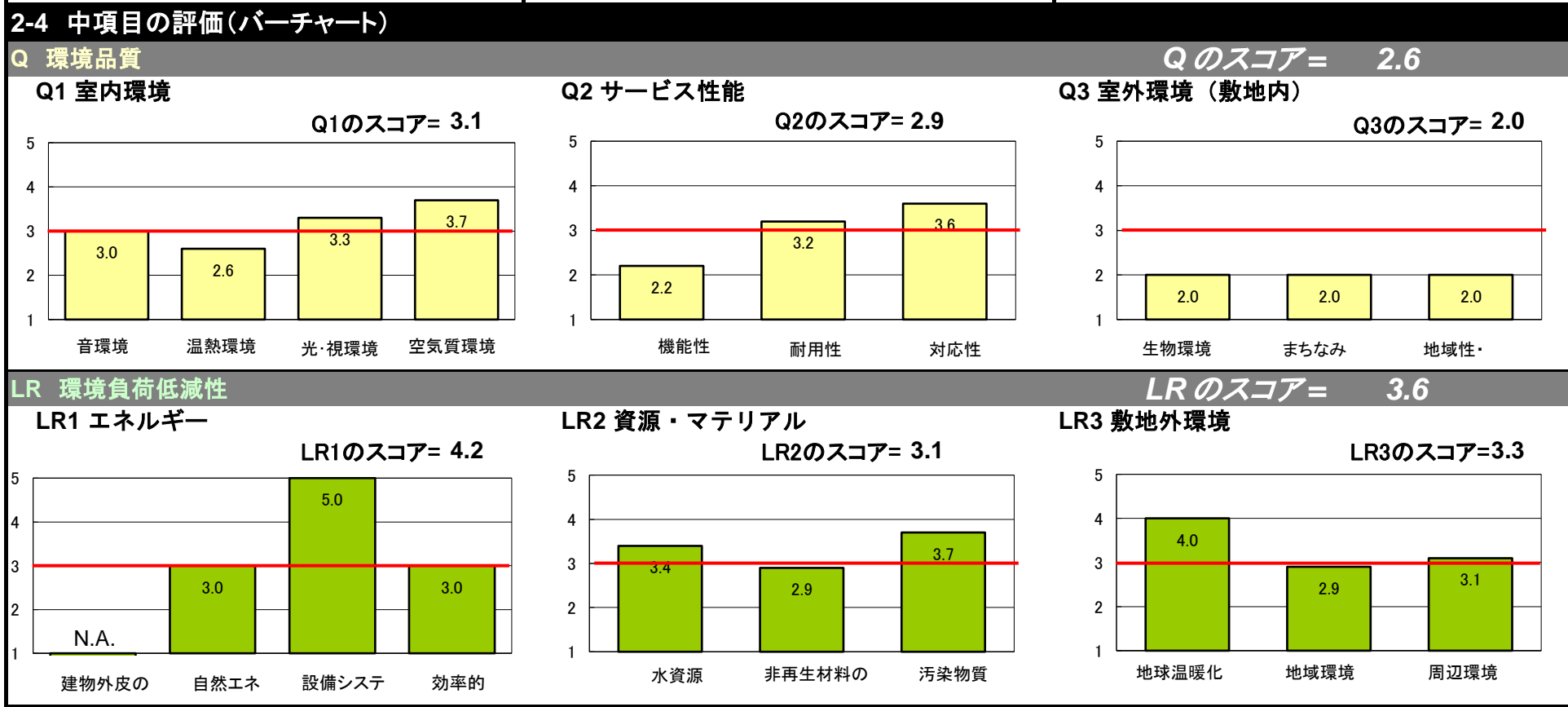
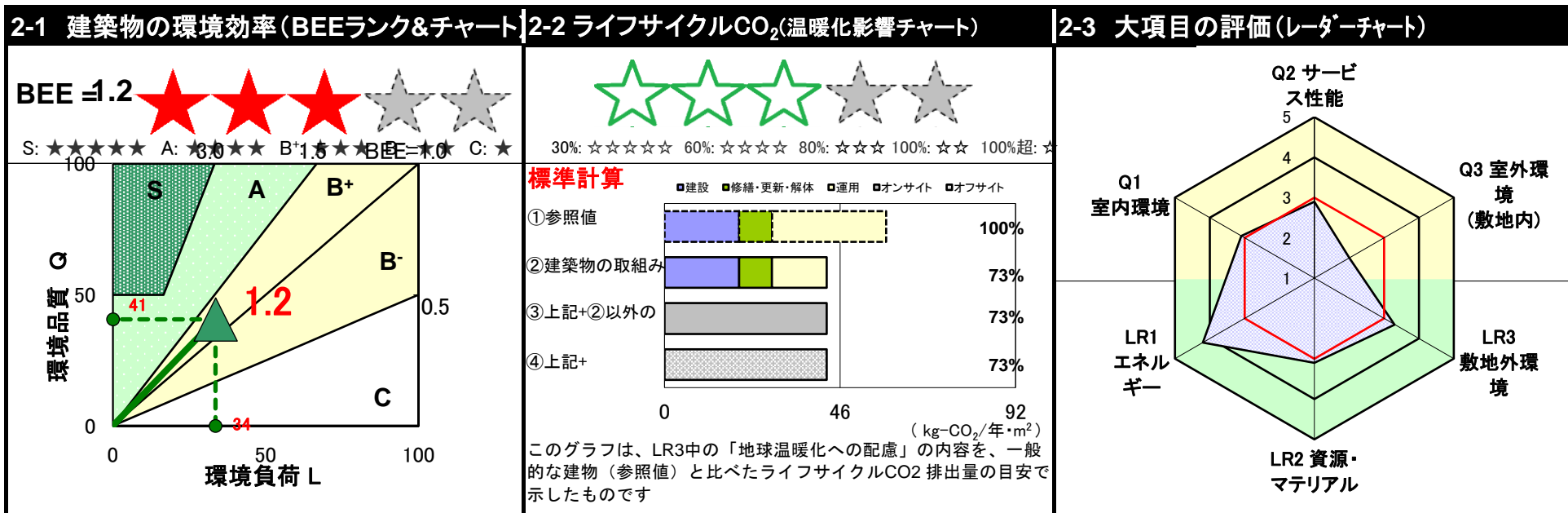
排出率

73%

3 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価		評価点												
		75												
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	87.5	<p>■ 熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値 (評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td>★★★★★</td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td>★★★★</td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td>★★★</td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td>★★</td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td>★</td> </tr> </tbody> </table> <p>※評価点は、100点以上が推奨です。</p>	判定値 (評価点)	ランク表示	100点以上	★★★★★	80点以上100点未満	★★★★	60点以上80点未満	★★★	40点以上60点未満	★★	40点未満	★
判定値 (評価点)	ランク表示													
100点以上	★★★★★													
80点以上100点未満	★★★★													
60点以上80点未満	★★★													
40点以上60点未満	★★													
40点未満	★													
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	53.7													
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	70.0													
【重点事項4】 循環型社会の実現	76.5													

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新益城工場建設プロジェクト	階数	地上1階
建設地	熊本県上益城郡益城町大字小谷字	構造	S造
用途地域等	市街化調整区域	平均居住人員	300 人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	3,180 時間/年(想定値)
建物用途	工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年12月 予定	評価の実施日	2023年8月10日
敷地面積	40,000 m ²	作成者	栗原寿樹矢
建築面積	4,348 m ²	確認日	2023年8月22日
延床面積	4,011 m ²	確認者	定森淳一



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境							0.30	-	-	3.1
1 音環境						3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能						3.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能						3.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-	-	-	
1.3 吸音						3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						2.6	0.35	-	-	2.6
2.1 室温制御						3.0	0.50	-	-	
1 室温						3.0	0.38	-	-	
2 外皮性能						3.0	0.25	-	-	
3 ゾーン別制御性						3.0	0.38	-	-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						3.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.3	0.25	-	-	3.3
3.1 昼光利用						4.2	0.30	-	-	
1 昼光率		2.5% ≤ 昼光率				5.0	0.60	-	-	
2 方位別開口						-	-	-	-	
3 昼光利用設備						3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御						3.0	1.00	-	-	
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.7	0.25	-	-	3.7
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		建物ほぼ全面にF☆☆☆☆採用				4.0	1.00	-	-	
4.2 換気						3.0	0.30	-	-	
1 換気量						3.0	0.50	-	-	
2 自然換気性能						3.0	0.50	-	-	
3 取り入れ外気への配慮						-	-	-	-	
4.3 運用管理						4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視						3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		建物内に喫煙ブースを設けていない				5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	2.9
1 機能性						2.2	0.40	-	-	2.2
1.1 機能性・使いやすさ						2.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性						3.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応						3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画						1.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性						2.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観						3.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース						3.0	0.33	-	-	
3 内装計画						1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理						2.0	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計						2.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性						3.2	0.30	-	-	3.2
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.2	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	
2 免震・制震・制振性能		揺れを抑える装置を導入し、部分的に地震時・強風時の内部設備保護が図られている				4.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.6	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		住宅の品質確保の促進に関する法律における木材、鉄骨又はコンクリートの評価方法基準で、等級2相当				4.0	0.20	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						3.0	0.20	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		主要な用途上位3種の、2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用				5.0	0.20	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性						3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備						3.0	0.20	-	-	
3 電気設備						3.0	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20	-	-	

3 対応性・更新性			3.6	0.30	-	-	3.6
3.1 空間のゆとり			5.0	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	[壁長さ比率]<0.1	5.0	0.40	-	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.40	-	-	2.0
1 生物環境の保全と創出			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.2
1 建物外皮の熱負荷抑制			-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用			3.0	0.13	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化		[BEI][BEIm] = 0.48	5.0	0.63	-	-	5.0
4 効率的運用			3.0	0.25	-	-	3.0
集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.1
1 水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水		節水コマなどに加えて、省水型機器(例えば擬音、節水型便器など)などを用いている	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.60	-	-	2.9
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		躯体+軽鉄+仕上材のディテールを採用及び再利用できるユニット部材を用いている	5.0	0.20	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.7	0.20	-	-	3.7
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	フロンを用いた断熱材等を使用していない	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3
1 地球温暖化への配慮		LCCO2排出率73%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		-	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの取扱いのチェックリストの一部を満たし、広告物照明を行っていない	4.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

建物名称 (仮称)新益城工場建設プロジェクト

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		75
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				87.5	0.40	35.00
Q1-2.1.2	外皮性能	3.0	0.10			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.10			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.10			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	0.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	5.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	3.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	2.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				53.7	0.20	10.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	1.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				70	0.20	14.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				76.5	0.20	15.30
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.6	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④)の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数

■ 環境関連の配慮事項

(仮称)新益城工場建設プロジェクト

印刷:モノクロ
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	高い断熱性能を確保して、快適な居住空間を創出するとともに、建物の長寿命化や地球環境にも配慮した計画	
Q1 室内環境	使用建材全てにF☆☆☆☆製品を使用し、かつ高い昼光率を確保している	
Q2 サービス性能	ゆとりのある階高と空間の自由さを確保し、設備やプランニングの自由度が極めて高い	
Q3 室外環境 (敷地内)	特になし	
LR1 エネルギー	LED照明設備など高効率設備により省エネルギー性に配慮している	
LR2 資源・マテリアル	建物の節水性に配慮している	
LR3 敷地外環境	消費エネルギー量削減により運用時のLCCO2排出量低減に配慮している	
その他		